

原 著

性的マイノリティに対する 大学生の意識と態度：第2報 —インターネットを活用した調査研究—

昭和大学富士吉田教育部

須長 史生* 小 倉 浩

堀川 浩之 倉田 知光

昭和大学学事部カウンセラー

正木 啓子

抄録：本研究は、2016年から3か年にわたって計画されている「インターネットを活用したセクシュアル・マイノリティに関する学生の意識調査」の2年目にあたり、本稿はその調査結果を記した「セクシュアル・マイノリティに対する大学生の意識と態度：第1報」（須長他〔2017〕）の続編となる。本研究の目的は18歳から20代前半の男女の、性的マイノリティに対する意識や態度を明らかにすることである。目的を達成するために、首都圏の医療系A大学の一年生445名（男子129名、女子313名、その他3名）に対してアンケート調査を行った。本調査は昨年度同様に、プライバシーの確保と回収率の向上のために、インターネットを活用することとし、学生はスマートフォンもしくはタブレット端末を用いてアンケートに回答した（回収率76.6%）。質問肢の作成およびデータの分析では前年度の調査をまとめた須長他〔2017〕を参考にし、その比較において若者、特に今回は18歳から20代前半まで大学生の、性的マイノリティに対する意識や行動の実情の把握を試みた。調査の結果、今年度の調査対象者の持つ特徴として、前年度に比べて性的マイノリティに関する客観的知識量が少ないこと、性的マイノリティとの接触機会はほぼ同程度であること、身近な同性愛者に対する嫌悪感情が低いこと、そして性的マイノリティに対する意識に、男女差がみられる項目が多いことが明らかになった。本調査は、前年度と異なり、差別や人権をテーマにした必修科目の授業の前に実施された。そのため調査実施のタイミングが回答傾向に影響を及ぼした可能性があり、考察にはその点も考慮に入れている。

キーワード：性的マイノリティ、客観的知識、性的偏見

緒 言

本稿は、10代後半から20代前半の学生の性的マイノリティに対する意識や態度を実証的に明らかにすることを目的に、執筆者5名により実施している「インターネットを活用した性的マイノリティに関する学生の意識調査（以下、「性的マイノリティ調査」）」の結果の概要と考察である。この調査は首都圏にある私立大学（以下、A大学）に通う一年生を対象にインターネットサイトを用いて実施したのであり、性的マイノリティに対する意識や態度お

よび本人の価値観や道徳観などについて意識調査を中心にアンケート調査を行っている。

本調査は2016年度から2018年度までの3か年にわたって行われ、本稿はその二年目にあたる2017年度に実施された調査の集計と考察の報告に位置づけられる。なお、初年度の調査については須長他〔2017〕¹⁾（以下、前報）を参照。

研究 方法

1. 調査概要

本調査は、筆者らが2016年度に行った調査結果

*責任著者

(以下、2016年度調査)と同じく、首都圏の医療系A大学の一年生を対象に行われた。2016年度調査の学生は二年生に進級しているため、対象者そのものは異なるが、属性は昨年度と同様であり、それゆえ対象者の特徴や属性の偏りさらにはこの対象者を調査する意義については、前報で指摘したことと同様のことがいえる。さらに、前年度の調査とデータを比較対照することで結果に一層の厚みを持たせることが可能になる。なお、本調査年において、A大学では留年および復学者が8名(男子1名、女子7名)いるが、この調査では特に彼らをより分けることはせずに調査サンプルに組み入れている。

上記特性を生かすために、本調査では中核的な質問項目である「性的マイノリティとの接触機会」や「身近な人が同性愛だったらどう思うか」などについては、2016年度調査と同じものを採用した。また2016年度調査の結果を踏まえ、特に(問8)では、「ジェンダー規範」や一般的な「行動倫理」について問う質問項目をくわえている(このことについては結果 1. 単純集計を参照)。

なお、調査を実施した2017年11月末の時点で、A大学の一年次の学生在籍数は581名(男子193名、女子388名)、有効回答数は445(男子129、女子313、性別未回答3)である。回収率は76.6%(男子66.8%、女子80.6%)である。これは2016年度調査の76.9%(男子66.1%、女子82.4%)と比べて同程度の数字であるといえる。

2. 情報収集法

本研究における情報収集方法は、基本的に前報で報告した方法を踏襲している。すなわち、Webサイト上に表示されるアンケートに各個人が回答を入力する方法で調査対象者の回答を収集した。この方法を採用する利点(回答収集過程の自動化・省力化、情報管理責任者の負担軽減、情報漏洩の危険性の低減など)の詳細については、前報を参照していただきたい。

情報収集は、2017年11月6日第1時限～第4時限の人文社会系の必修科目授業終了後の休み時間に行った。実施前の事前説明において、協力は全くの自由意思であり、協力しないことによりいかなる不利益も被る可能性がないこと、アンケート回答は個人が特定されない方法で処理されることを説明した点も、前報と同様である。

一方で、前報と今回の調査結果とを比較する際に注意しなければならない点がある。前報においては、情報収集が差別や人権を主テーマとして扱った人文社会系の授業の直後に行われたため、その回答が(差別や人権に対する意識の覚醒を通じて)直前の授業の影響を受けている可能性がある。今回の調査では調査実施直前の人文社会系の授業の内容はガイダンスが中心であったため、授業の影響を受けない条件下で行われている。

この調査は、昭和大学の「医学部における人を対象とする研究等に関する倫理委員会」における審査・承認(受付番号2073、課題名「インターネットを活用したセクシュアル・マイノリティに関する学生の意識調査」)を得て行われた。

結 果

1. 単純集計

本節では、本調査の設問10項目中の3項目(問8.「戸籍上の性別」、問9.「戸籍上の性別への違和感」、問10.「セクシュアリティ」)を除いた7項目において、これらをトピックごとにまとめ、調査結果を掲載する。トピックは、以下の6つとなる。

①「客観的知識」(問2、問3)、②「接触機会」(問1)、③「身近な人に対する嫌悪感」(問4)、④「友人(同性)からのカミング・アウト」(問5)、⑤「同性愛に関する見解」(問6)、⑥「一般的な道徳観に関する見解」(問7)である。

また、本調査の母体となる2016年度調査は、全国的な傾向との対比を行うため、釜野さおりらが2015年に行った全国調査(以下、全国調査)²⁾を参考に作成されている。このことを踏まえて、本調査と2016年度調査、および全国調査との対応関係は次の通りとなっている。①全国調査と全く同じ設問は、問2.2、問2.5、②全国調査に一部加筆修正を加えた設問は、問1、問4、問5、問6、③2016年度調査と全く同じ設問は、問2.2、問2.5、問3、④2016年度調査に一部加筆修正を加えた設問は、問1、問4、問5、問6となる。⑤本調査で新設した設問は、問2.1、問2.3、問2.4、問7であり、知識の習得率をより詳細に把握するためと、性的マイノリティに対する規範構造とを調べるために一般的な道徳観についての設問を加えた。

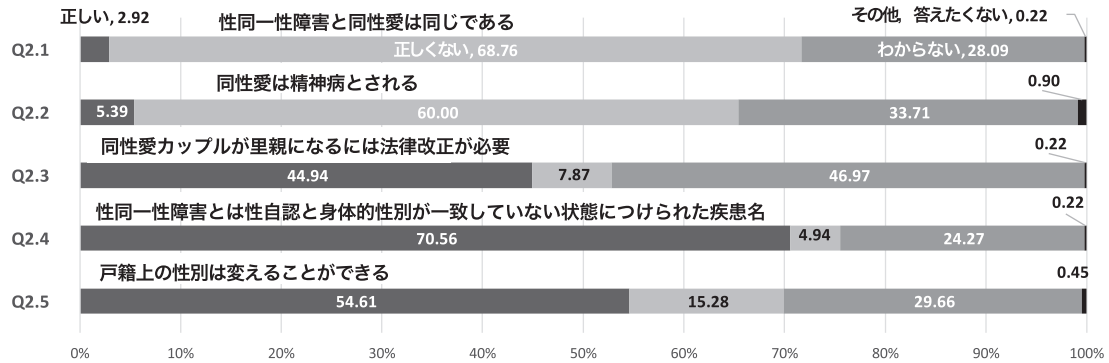


図 1

1) 客観的知識

本調査では、性的マイノリティに関する正しい知識の習得率について、現状を把握するために、問2において5つの設問を設定した。図1に集計結果を示す。

さらに、問3では「あなたは、同性愛者、性別を変えた方、性同一性障害などについて正しい知識を身につけたいと思いますか」と、性的マイノリティについて正しい知識を身につけたいかという設問1つも加え、学生の知識習得への意欲についても聞いている。図2に集計結果を示す。

問2の5項目と問3の調査結果については、以下の通りである。

問2.1では、「性同一性障害と同性愛は同じである」ことについて質問している。ここでは、性同一性障害は個人の性自認が生物学的な性別とずれていることであり、また、同性愛は恋愛の対象の性別が同性であることを示していることから、これらは異なる概念であり、正解は、「正しくない」となる。結果、本調査では、7割程度が正しい知識を有していることがわかった。

問2.2では、「日本では同性愛は精神病とされる」という客観的な事実に関する知識を質問している。この設問については、全国調査で実施された設問を採用しており、日本精神神経学会が1995年にICD-10（国際疾病分類第10版）の基準に照らし、「同性愛（同性に対する性的指向）」を「精神異常」とみなさないという判断に基づき、ここでの正解は「正しくない」となる。結果、本調査の正解率は60.0%となり、これは全国調査の学歴別での正解割合において「専門・専修学校卒」の正解率59.9%とほぼ同

Q3 正しい知識を身につけたいか

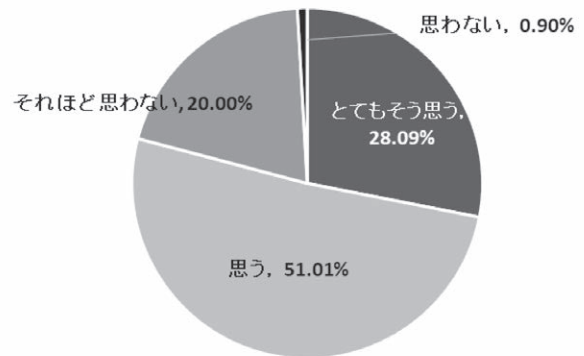


図 2

等であり、年代別データでは20代-30代の正解率60.0%と同等となる。しかし、2016年度調査の正解率73.3%と比較すると今年の調査では正解率は13.3ポイントの低下が認められた。

問2.3では、「日本では、同性カップルが正式に里親になるためには法律の改正が必要である」と里親制度について質問している。この設問については、里親制度においては法律上同性カップルが排除されることはないため、正解は「正しくない」となる。本調査ではこの設問の正解率が1割に満たず、他に比べて低くなった。これについては里親制度に類似する特別養子縁組制度との知識の混同が原因として推測される。厚生労働省によると、里親制度とは養育が困難になった子どもを別の家庭の下で養育を受けられるようにする制度である³⁾のに対し、特別養子縁組制度とは、養子となる子どもの実親との法的な親子関係を解消し、実子と同じ親子関係を結

ぶ制度⁴⁾となっている。つまり後者においては法的な親子関係の変更を伴うため、同性婚が認められていないわが国においては、同性カップルが養子を迎えるには民法の改正が必要となってくるが、前者においては養育家庭が移るだけなので法的な手続きを必要としないのである。本設問で「わからない」が47.0%と最も多くなったのも、「特別養子縁組制度」と「里親制度」の区別が広く認知されていなかったことが要因の一つであると思われる。

問2.4では、「性同一性障害とは性自認と身体的性別が一致していない状態につけられた疾患名である」と性同一性障害に関して質問している。この設問については、2013年に改訂された米国精神医学会が定めた診断基準であるDSM-V（精神障害の診断と統計マニュアル）では、「性別違和」という用語を用いているが、性同一性障害とは、生物学的性別（sex）と性別に対する自己意識あるいは自己認知（gender identity）が一致しない状態に対して付けられた診断名であることから、正解は「正しい」となる。結果、本調査では7割程度が正しい知識を有していることがわかった。

問2.5では、「日本では、戸籍上の性別を変えることができる」と法律について質問している。これについては、2003年に成立し、2004年から施行されている「性同一性障害特例法」に依拠すると、ここでの正解は「正しい」となる。結果、本調査における正解率は54.6%であり、2016年度調査の正解率62.4%と比較すると正解率は7.8ポイント低下するものの、全国調査の学歴別での正解割合において「短大・高専卒」の正解率38.0%、「大学・大学院卒」の正解率38.0%と比較すると高い結果であった。

問3では、「あなたは、同性愛者、性別を変えた方、性同一性障害などについて正しい知識を身につけたいと思いますか」と、性的マイノリティについて正しい知識を身につけたいか、学生の知識習得への意欲について質問している。これに関しては「と

てもそう思う」「そう思う」との回答は、合計で79.1%であり、2016年度調査の77.0%より2ポイント高い結果となっており、正しい知識習得への意欲については、昨年、今年の調査ともに高いことがうかがえる。

2) 接触機会

問1では、「あなたの近しい友人や知人、親戚や家族など身近な方に以下に挙げる人はいますか。同性愛者（問1.1）、性同一性障害の人（問1.2）」と性的マイノリティの人との接触機会について聞いている。図3に集計結果を示す。

結果、同性愛者については、「いる」11.0%、「そうかもしれない人がいる」9.7%となり、性同一性障害の人については、「いる」4.9%、「そうかもしれない人がいる」5.4%と回答していた。「いる」「そうかもしれない人がいる」をあわせると「同性愛者」は20.7%、「性同一性障害の人」は10.3%となり、さらにこの2つをあわせると31.0%が性的マイノリティの人と接触していたことが推測された。2016年度調査では、同性愛者・性別を変えた人・性同一性障害の人をまとめて聞いており、「いる」「そうかもしれない人がいる」をあわせると30.3%となる。このことから、調査対象者の3割が性的マイノリティの人と接触機会を持つ傾向にあることが推測される。

3) 身近な人に対する嫌悪感

問4では、身近な人が性的マイノリティである場合の嫌悪感について「あなたの知人」「同じ大学の人」「あなたのきょうだい」が同性愛者だった場合、あるいは性同一性障害の人だった場合の気持ちについて質問している。図4に集計結果を示す。

結果、「知人」において、同性愛者だったら「嫌ではない」「どちらかというと嫌ではない」の合計は81.8%であり、性同一性障害の人だったら「嫌ではない」「どちらかというと嫌ではない」の合計は85.8%であった。また、「同じ大学の人」が同性愛



図 3

者だったら「嫌ではない」「どちらかという嫌ではない」の合計は83.8%であり、性同一性障害の人だったら「嫌ではない」「どちらかという嫌ではない」の合計は88.7%であった。このことより、「知人」「同じ大学の人」については、8～9割程度が「嫌ではない」「どちらかという嫌ではない」との気持ちを示していることがわかった。しかし、「あなたのきょうだい」に関しては、同性愛者だったら「嫌ではない」「どちらかという嫌ではない」の合計は61.6%となり、「どちらかという嫌である」「嫌だ」の合計が35.9%と高くなる。また、性同一性障害の人だったらという質問においても「嫌ではない」「どちらかという嫌ではない」の合計は65.8%となり、「どちらかという嫌である」「嫌だ」の合計は31.4%となり高くなる傾向にあった。この傾向は、全国調査の結果と同様に、関係が近いほど嫌悪感を示す人が多くなる傾向といえる。一方で2016年度調査と比較すると、身近な同性愛者（同じ大学・きょうだい）に対する嫌悪感は「嫌ではない」のみに注目すると3.7・9.4ポイント低くなった。

4) 友人（同性）からのカミング・アウト

問5では、同性の友人からカミング・アウトされた場合の気持ちや態度を「言ってくれてうれしい」「理解したい」「かわいそう」「興味が出てくる」「寄り添いたい」「身の危険を感じる」「気持ち悪い」「迷惑だ」「大変なことになった」「自分なら治してあげられる」「聞かなかったことにしたい」「どうでもいい」の12項目について、4件法で質問している。図5に集計結果を示す。

結果、2016年度調査において最も回答の割合が多かった「理解したい」305人（70%）、次いで「言ってくれてうれしい」202人（46%）についてのみ注目して今年の調査と比較すると、今年の調査の「理解したい」では「当てはまる」63.1%、「言ってくれてうれしい」では「当てはまる」45.6%となり、「理解したい」では9ポイントの低下、「言ってくれてうれしい」ではほぼ同等という結果であることがわかった。ただし、2016年度調査はカミング・アウトされた場合の気持ちや態度を3つまで選択するという回答方法であり、回答方法が異なっていることから正確な比較は難しいと考える。

5) 同性愛に関する見解

問6では、同性愛に関する意見や考えについて、「同性愛は不道德だ」「同性に恋愛感情を持たれるのは嫌だ」「寮生活では同性愛者と同部屋でもよい」「同性同士の結婚も法律的に認められるべきだ」「同性愛は恥ずかしいことではない」「同性愛は遺伝的要素が大きい」の6項目について、4件法で質問している。なおA大学では1年時に全寮制教育を実施しており、学生は男女別に4人一部屋の相部屋で約1年間を生活することになっている。図6のQ6.3はそれを踏まえた設問である。図6に集計結果を示し、結果とする。

6) 一般的な道徳観に関する見解

問7は、性的マイノリティに対する規範構造を調べるために一般的な道徳観について設問を加えた。設問は10項目にわたり、前半の4項目は一般的な道徳観について、後半の6項目は性に関わる価値観

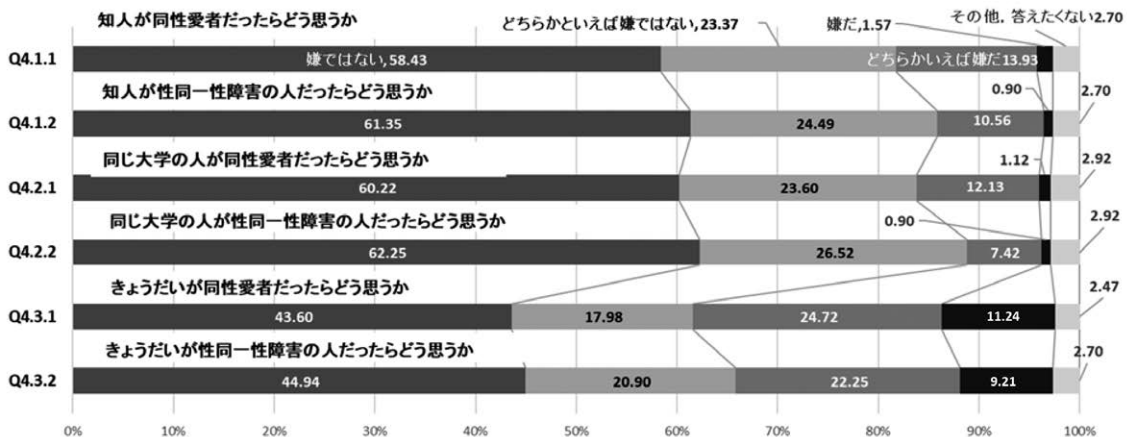


図 4

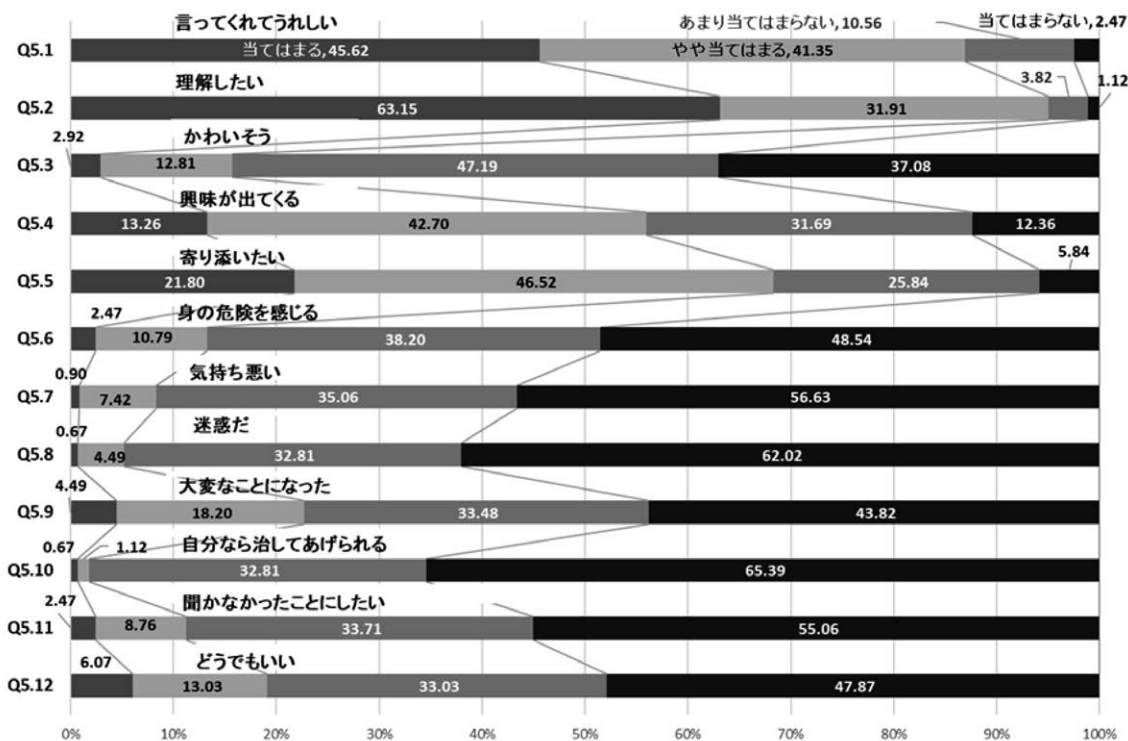


図 5

について質問している。図 7 に集計結果を示し、結果とする。

7) まとめ

以上から、本調査から見てくる特徴についてまとめると、以下の 4 点が挙げられる。①正しい知識を有している割合は、2016 年度調査と比較できる項目（問 2.2、問 2.5）のみに注目すると、それぞれ正解率は 13.3 ポイント、7.8 ポイントの低下が認められたが、全国調査の学歴別では、それぞれ大学一年生相応、大卒・大学院卒以上の正解率であった。②本調査、2016 年度調査ともに、3 割程度が性的マイノリティの人との接触機会を持つ傾向にあることが推測された。③本調査でも 2016 年度調査同様に、知識習得の意欲は高い。④身近な同性愛者（同じ大学・きょうだい）に対する嫌悪感については、2016 年度調査より低くなった。

2. ジェンダー別のクロス集計

ここでは性的マイノリティに対する意識や態度について、ジェンダー差に注目して把握することで理解を深めたい。

最初に 2016 年度調査の結果について確認しておく。全体的な傾向としては「男子に保守的、女子に

平等主義的な傾向」がその特徴であった。友人からのカミング・アウトについても女子が共感的態度を示すのに対し、男子には「同情」や「興味」さらには「どうでもいい」とする態度を示す点が特徴的であった。他方この結果を全国調査の同年代のサンプルと比較したところ、2016 年度調査の結果は男女問わず性的マイノリティに対する嫌悪感が低く許容度が高いことが特徴的であった。そしてこの傾向は男子に強くみられた¹⁾。

これに対し、本調査ではどのような特徴がみられるだろうか。以下ではテーマごとに各質問項目に沿って＜戸籍上の性別＞との関係を検討する。集計の結果にカイ 2 乗検定を行い、Pearson の漸近線有意確率（両側）で 5% 未満の水準で有意差のあったものを取り上げる。

1) 知識欲求

性的マイノリティに関する客観的知識を問うたものについては、「（問 2.1）性同一性障害と同性愛は同じである」（ $P=.036$ ）において、女性の正解率が有意に高かった。またこの関連で性的マイノリティに関して「正しい知識を身につけたい」と思うかを問うた質問（問 2.5）では女性の方が有意に同意の

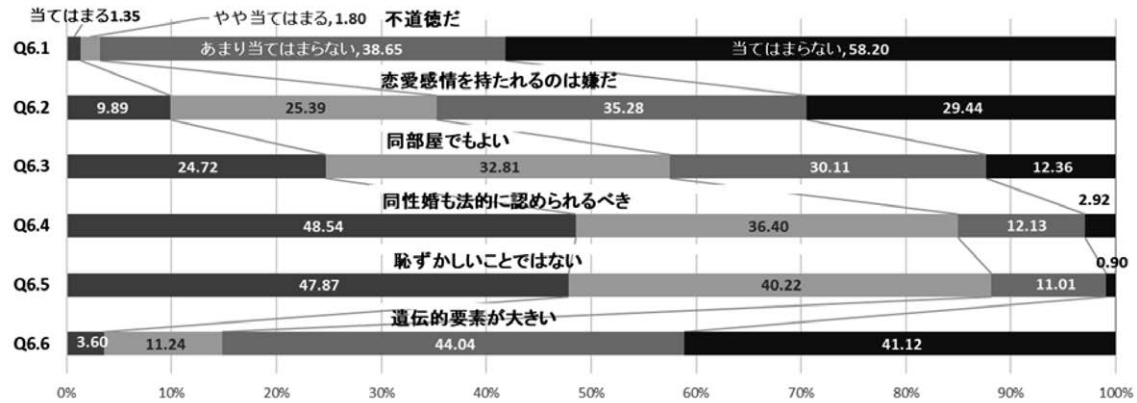


図 6

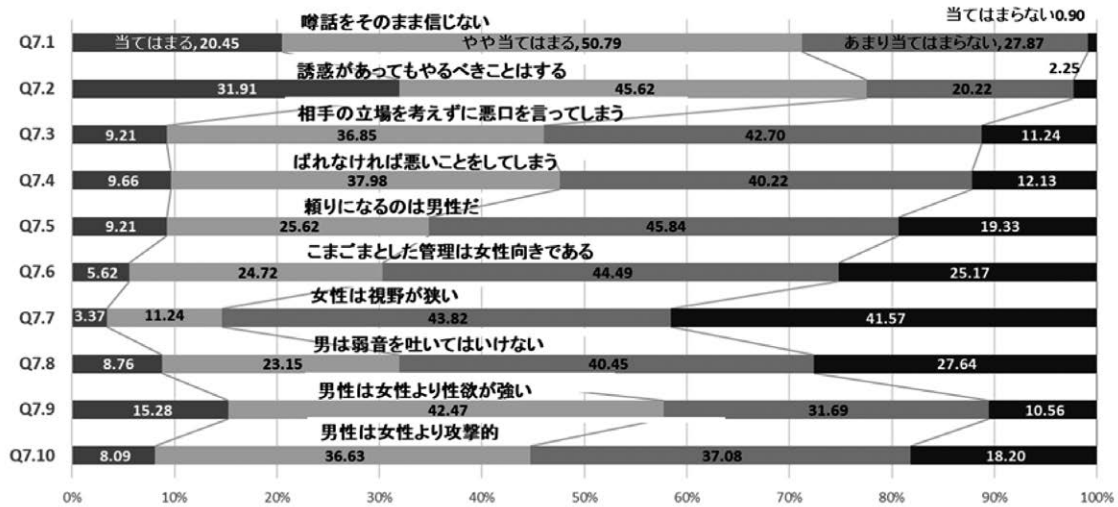


図 7

割合が高かった (P=.041)。

2) 身近な人が性的マイノリティだったら

身近な人が性的マイノリティであった場合どのように思うかを問うた項目 (問 4.1 ~ 3) では、下図のとおり、身近な相手が知人でも同じ大学の人でもきょうだいでも、そして性的マイノリティの内容が同性愛であっても性同一性障害であっても、軒並み男性が「嫌だ」と答える傾向があった。唯一「あなたのきょうだいが性同一性障害だったら」という項目のみ有意差がみられなかった。以下、<図 8>に回答の概略を示し、続いて<参考資料>にそれぞれの問と性別のクロス表を示す。

3) 同性友人から同性愛であると告げられたら

仲の良い同性の友人から同性愛者であると告げら

れたらどう思うかを問うた項目 (問 5.1 ~ 12) については、図 9 のとおりとなっている。共感的な態度においては女性が有意に高く、逆に嫌悪感など否定的な感情では男性が有意に高くなっている。以下、<図 9>に回答の概略を示し、続いて<参考資料>にそれぞれの問と性別のクロス表を示す。

4) 同性愛に対する意識、価値観

同性愛に対する意識や価値観について問うた項目 (問 6.1 ~ 6) では「(問 6.6) 同性愛は遺伝的要素が大きい」以外のすべての項目で有意差がみられた。ここにおいても男性の嫌悪感がにじみ出ている。以下、<図 10>に回答の概略を示し、続いて<参考資料>にそれぞれの問と性別のクロス表を示す。

以上、性的マイノリティに関する客観的知識、身

近な人が性的マイノリティであった場合どのように思うか、仲の良い同性の友人から同性愛者であると告げられたらどう思うか、同性愛に対する意識や価値観の4つのテーマについて質問項目ごとにジェンダー差を見てきた。今回の調査の特徴はすべての項目において男女差がはっきりとみられ、特に意識や価値観の点でその差が際立ったことである。

差異の内容もほぼ一貫しており、男性は性的マイノリティ、特に同性愛に対し嫌悪感や拒否感を示し、不寛容の特徴を有している。他方、女性はその逆で共感的態度、平等志向がみられる。

なお、全国調査（回答者：20～30代）と同じ質問項目については「仲の良い同性から＜同性愛者＞だと告げられたらどう思うか」の問いにおいて、全国調査では「気持ち悪い」と回答したのが男性9.4%、女性4.3%であるのに対し、本調査では男性が「当てはまる」と「やや当てはまる」を合わせて13.2%、女性が5.8%といずれも上回っている。またこの数値は2016年度調査（男性3.6%、女性1.3%）と比較しても3倍以上の高い数値である。同じく「身の危険を感じる」と回答したものについ

ては、全国調査が男性17.3%、女性9.2%であるのに対し、本調査では男性が21.7%、女性が9.3%と同水準か上回る数値になっている。これも2016年度調査（男性5.1%、女性4.7%）と比べて高い数値となっている。このことについては章を改めて考察を試みたい。

3. 主成分分析

1) 意義

各設問に対する回答の相互関係を把握することで、調査対象者の全体像を把握することを試みる。解析手法として主成分分析を使用する。これにより得られる各主成分の意味づけは、回答者を特徴づける特徴量を抽出する手段を提供してくれる。すなわち、主成分分析の実施は、以下に述べる意味で回答者像を概観するのに好適である。

本稿を含む一連の研究の最終目標の一つは、性的マイノリティに対する意識や態度に影響を与えるさまざまな因子について、その影響の度合を含めた各因子間の相互の関係を共分散構造分析〔豊田1998, 朝野、鈴木、小島2005〕^{5,6)}を用いて統一的に議論することである。一方、本稿で実施する主成分分析に

Q4.1.1	あなたの知人	同性愛	嫌だ	女性<男性	P=.007
Q4.1.2	性同一性障害	嫌だ	女性<男性	P=.040	
Q4.2.1	同じ大学の人	同性愛	嫌だ	女性<男性	P=.001
Q4.2.2	性同一性障害	嫌だ	女性<男性	P=.017	
Q4.3.1	あなたのきょうだい	同性愛	嫌だ	女性<男性	P=.024

(参考資料)

Q4.1.1 あなたの知人が同性愛者だったら、どう思うか						
		嫌ではない	どちらかという と嫌ではない	どちらかとい えば嫌だ	嫌だ	合計
男性	度数	60	33	26	4	123
		48.8%	26.8%	21.1%	3.3%	100.0%
女性	度数	197	71	36	3	307
		64.2%	23.1%	11.7%	1.0%	100.0%
合計	度数	257	104	62	7	430
		59.8%	24.2%	14.4%	1.6%	100.0%

Q4.1.2 あなたの知人が性同一性障害だったら、どう思うか						
		嫌ではない	どちらかという と嫌ではない	どちらかとい えば嫌だ	嫌だ	合計
男性	度数	67	37	16	3	123
		54.5%	30.1%	13.0%	2.4%	100.0%
女性	度数	203	72	31	1	307
		66.1%	23.5%	10.1%	0.3%	100.0%
合計	度数	270	109	47	4	430
		62.8%	25.3%	10.9%	0.9%	100.0%

Q4.2.1 同じ大学の人が同性愛者だったら、どう思うか						
		嫌ではない	どちらかという と嫌ではない	どちらかとい えば嫌だ	嫌だ	合計
男性	度数	61	35	23	4	123
		49.6%	28.5%	18.7%	3.3%	100.0%
女性	度数	205	69	31	1	306
		67.0%	22.5%	10.1%	0.3%	100.0%
合計	度数	266	104	54	5	429
		62.0%	24.2%	12.6%	1.2%	100.0%

Q4.2.2 同じ大学の人が性同一性障害者だったら、どう思うか						
		嫌ではない	どちらかという と嫌ではない	どちらかとい えば嫌だ	嫌だ	合計
男性	度数	68	38	14	3	123
		55.3%	30.9%	11.4%	2.4%	100.0%
女性	度数	207	79	19	1	306
		67.6%	25.8%	6.2%	0.3%	100.0%
合計	度数	275	117	33	4	429
		64.1%	27.3%	7.7%	0.9%	100.0%

Q4.3.1 あなたのきょうだい同性愛者だったら、どう思うか						
		嫌ではない	どちらかという と嫌ではない	どちらかとい えば嫌だ	嫌だ	合計
男性	度数	44	33	33	13	123
		35.8%	26.8%	26.8%	10.6%	100.0%
女性	度数	147	47	77	37	308
		47.7%	15.3%	25.0%	12.0%	100.0%
合計	度数	191	80	110	50	431
		44.3%	18.6%	25.5%	11.6%	100.0%

図 8

Q5.1	言ってくれてうれしい	女性>男性	P=.000
Q5.2	理解したい	女性>男性	P=.000
Q5.4	興味が出てくる	女性>男性	P=.015
Q5.5	寄り添いたい	女性>男性	P=.000
Q5.6	身の危険を感じる	女性<男性	P=.001
Q5.7	気持ち悪い	女性<男性	P=.000
Q5.8	迷惑だ	女性<男性	P=.000
Q5.9	大変なことになった	女性<男性	P=.000
Q5.10	自分なら治してあげられる	女性<男性	P=.049
Q5.11	聞かなかったことにしたい	女性<男性	P=.005
Q5.12	どうでもいい	女性<男性	P=.007

(参考資料)

Q5.1 同性友人から 同性愛者”のカミングアウト [言ってくれてうれしい]						
		当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
男性	度数	23	70	27	9	129
		17.8%	54.3%	20.9%	7.0%	100.0%
女性	度数	180	112	19	2	313
		57.5%	35.8%	6.1%	0.6%	100.0%
合計	度数	203	182	46	11	442

Q5.2 同性友人から 同性愛者”のカミングアウト [理解したい]						
		当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
男性	度数	59	58	7	5	129
		45.7%	45.0%	5.4%	3.9%	100.0%
女性	度数	221	82	10	0	313
		70.6%	26.2%	3.2%	0.0%	100.0%
合計	度数	280	140	17	5	442
		63.3%	31.7%	3.8%	1.1%	100.0%

Q5.4 同性友人から 同性愛者”のカミングアウト [興味が出てくる]						
		当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
男性	度数	12	45	53	19	129
		9.3%	34.9%	41.1%	14.7%	100.0%
女性	度数	47	143	88	35	313
		15.0%	45.7%	28.1%	11.2%	100.0%
合計	度数	59	188	141	54	442
		13.3%	42.5%	31.9%	12.2%	100.0%

Q5.5 同性友人から 同性愛者”のカミングアウト [寄り添いたい]						
		当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
男性	度数	6	55	53	15	129
		4.7%	42.6%	41.1%	11.6%	100.0%
女性	度数	91	150	61	11	313
		29.1%	47.9%	19.5%	3.5%	100.0%
合計	度数	97	205	114	26	442
		21.9%	46.4%	25.8%	5.9%	100.0%

Q5.6 同性友人から 同性愛者”のカミングアウト [身の危険を感じる]						
		当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
男性	度数	7	21	51	50	129
		5.4%	16.3%	39.5%	38.8%	100.0%
女性	度数	4	25	118	166	313
		1.3%	8.0%	37.7%	53.0%	100.0%
合計	度数	11	46	169	216	442
		2.5%	10.4%	38.2%	48.9%	100.0%

Q5.7 同性友人から 同性愛者”のカミングアウト [気持ち悪い]						
		当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
男性	度数	4	13	60	52	129
		3.1%	10.1%	46.5%	40.3%	100.0%
女性	度数	0	18	96	199	313
		0.0%	5.8%	30.7%	63.6%	100.0%
合計	度数	4	31	156	251	442
		0.9%	7.0%	35.3%	56.8%	100.0%

Q5.8 同性友人から 同性愛者”のカミングアウト [迷惑だ]						
		当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
男性	度数	3	11	55	60	129
		2.3%	8.5%	42.6%	46.5%	100.0%
女性	度数	0	7	91	215	313
		0.0%	2.2%	29.1%	68.7%	100.0%
合計	度数	3	18	146	275	442
		0.7%	4.1%	33.0%	62.2%	100.0%

Q5.9 同性友人から 同性愛者”のカミングアウト [大変なことになった]						
		当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
男性	度数	8	40	44	37	129
		6.2%	31.0%	34.1%	28.7%	100.0%
女性	度数	12	39	105	157	313
		3.8%	12.5%	33.5%	50.2%	100.0%
合計	度数	20	79	149	194	442
		4.5%	17.9%	33.7%	43.9%	100.0%

Q5.10 同性友人から 同性愛者”のカミングアウト [自分なら治してあげられる]						
		当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
男性	度数	3	1	45	80	129
		2.3%	0.8%	34.9%	62.0%	100.0%
女性	度数	0	2	101	210	313
		0.0%	0.6%	32.3%	67.1%	100.0%
合計	度数	3	3	146	290	442
		0.7%	0.7%	33.0%	65.6%	100.0%

Q5.11 同性友人から 同性愛者”のカミングアウト [聞かなかったことにしたい]						
		当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
男性	度数	5	16	53	55	129
		3.9%	12.4%	41.1%	42.6%	100.0%
女性	度数	6	21	97	189	313
		1.9%	6.7%	31.0%	60.4%	100.0%
合計	度数	11	37	150	244	442
		2.5%	8.4%	33.9%	55.2%	100.0%

Q5.12 同性友人から 同性愛者”のカミングアウト [どうでもいい]						
		当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
男性	度数	13	19	50	47	129
		10.1%	14.7%	38.8%	36.4%	100.0%
女性	度数	14	37	97	165	313
		4.5%	11.8%	31.0%	52.7%	100.0%
合計	度数	27	56	147	212	442
		6.1%	12.7%	33.3%	48.0%	100.0%

図 9

性的マイノリティに対する調査研究

Q6.1	同性愛は不道德だ	女性<男性	P=.000
Q6.2	同性に恋愛感情を持たれるのは嫌だ	女性<男性	P=.000
Q6.3	寮生活では同性愛者と同居でもよい	女性>男性	P=.000
Q6.4	同性婚も法的に認められるべきだ	女性>男性	P=.000
Q6.5	同性愛は恥ずかしいことではない	女性>男性	P=.000

(参考資料)

Q 6.1 同性愛は不道德だ						
		当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
男性	度数	5	6	53	65	129
		3.9%	4.7%	41.1%	50.4%	100.0%
女性	度数	1	1	118	193	313
		0.3%	0.3%	37.7%	61.7%	100.0%
合計	度数	6	7	171	258	442
		1.4%	1.6%	38.7%	58.4%	100.0%

Q 6.2 同性に恋愛感情を持たれるのは嫌だ						
		当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
男性	度数	26	44	41	18	129
		20.2%	34.1%	31.8%	14.0%	100.0%
女性	度数	18	67	116	112	313
		5.8%	21.4%	37.1%	35.8%	100.0%
合計	度数	44	111	157	130	442
		10.0%	25.1%	35.5%	29.4%	100.0%

Q 6.3 寮生活では同性愛者と同居でもよい						
		当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
男性	度数	15	38	57	19	129
		11.6%	29.5%	44.2%	14.7%	100.0%
女性	度数	95	105	77	36	313
		30.4%	33.5%	24.6%	11.5%	100.0%
合計	度数	110	143	134	55	442
		24.9%	32.4%	30.3%	12.4%	100.0%

Q 6.4 同性同士の結婚も法的に認められるべきだ						
		当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
男性	度数	40	60	22	7	129
		31.0%	46.5%	17.1%	5.4%	100.0%
女性	度数	175	100	32	6	313
		55.9%	31.9%	10.2%	1.9%	100.0%
合計	度数	215	160	54	13	442
		48.6%	36.2%	12.2%	2.9%	100.0%

Q 6.5 同性愛は恥ずかしいことではない						
		当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計
男性	度数	41	62	25	1	129
		31.8%	48.1%	19.4%	0.8%	100.0%
女性	度数	171	115	24	3	313
		54.6%	36.7%	7.7%	1.0%	100.0%
合計	度数	212	177	49	4	442
		48.0%	40.0%	11.1%	0.9%	100.0%

図 10

より得られる各主成分は、全データの持つ分散を最も簡潔に表現する座標軸成分を意味する〔永田、棟近 2001〕⁷⁾。個々の回答者は、これらの座標軸成分に対してどのような得点を有しているかという観点から特徴づけることができる。さらに、ここで得られる各主成分の意味づけは、共分散構造分析を用いて総合的な関連図（パス図）を作成しようとするときに、関連図に記述すべきそれぞれの因子を選択するための出発点となる。共分散構造分析による解析結果については、稿を改めて報告する。

2) 結果

解析対象データは単純集計で使用したものと同一で、445名の研究協力者から得られた45問の設問に対する回答データである。回答データに対して主成分分析を実施すると、第一主成分から第45主成分までの主成分が得られる。図11に各主成分の寄与率および累積寄与率を示す。また、図12に第一主成分から第五主成分までの各成分の標準偏差、寄与率および累積寄与率を示す。

図12の累積寄与率より、第五主成分までで全データのもつ分散の約42%が説明可能であること

が分かる。この数字は十分大きいとは言えないが、主成分分析の目的は全データの持つ構造を分かりやすく要約して提示することであるから、以降では第五主成分までに限定して各主成分の持つ意味について考察する。

図13に第五主成分までの因子負荷量を示す。ただし、ここでは公開が不適切であると判断される2つの設問に関する結果は除外して示してある。因子負荷量が0.2よりも大きい場合または-0.2よりも小さい場合は網掛けを施した。網掛けを施した設問の内容から各主成分の意味を検討する。

まず、第一主成分の特徴を列挙すると、

- ・問4.1.1～問4.3.2までの、知人が性的マイノリティであった場合にどう思うかを問う各設問に対しては、否定的な応答を示す。

- ・同性友人からのカミング・アウトに対しては、「気持ち悪い」（問5.7）、「迷惑だ」（問5.8）、「聞かなかったことにしたい」（問5.11）の各設問に対して肯定的な応答を示す。

- ・「同性愛は不道德だ」（問6.1）に対して肯定的な応答を示す。

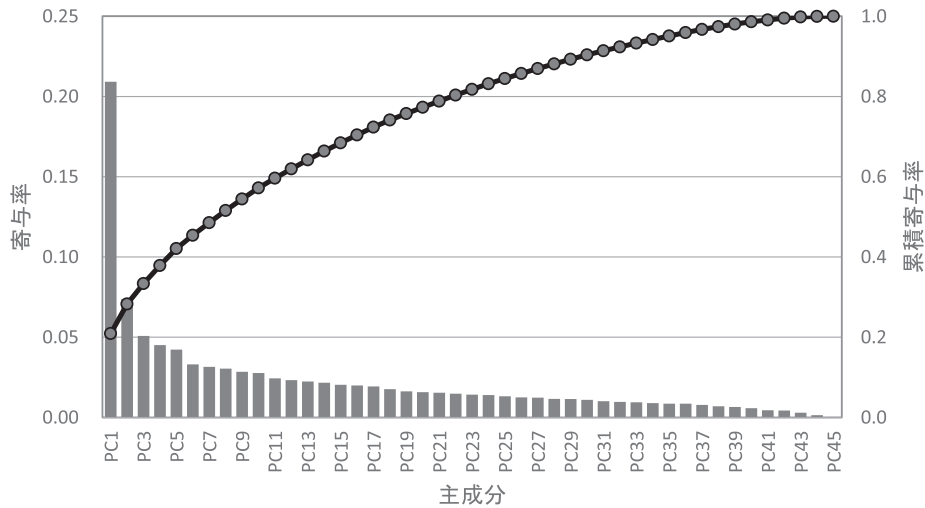


図 11 各主成分の寄与率および累積寄与率

	第一主成分	第二主成分	第三主成分	第四主成分	第五主成分
標準偏差	3.07	1.82	1.51	1.42	1.38
寄与率	0.21	0.07	0.05	0.05	0.04
累積寄与率	0.21	0.28	0.33	0.38	0.42

図 12 第一～第五主成分までの標準偏差、寄与率および累積寄与率

・「同性愛ははずかしいことではない」(問 6.5) に対して否定的な応答を示す。

となる。以上から第一主成分は、「性的マイノリティに対する嫌悪感因子」であると考えることができる。すなわち、この因子の因子得点が高い人ほど性的マイノリティに対して否定的な姿勢が強くなる。逆に、この因子の因子得点が小さい人ほど、性的マイノリティに対して同じ立場に立って理解したいという姿勢が強いと言える。

次に、第二主成分の特徴を列挙すると、

・問 4.1.1 ～問 4.3.2 までの、知人が性的マイノリティであった場合にどう思うかを問う各設問に対しては、受容の応答を示す。

・同性友人からのカミング・アウトに対しては、「かわいそう」(問 5.3), 「興味が出てくる」(問 5.4), 「身の危険を感じる」(問 5.6), 「迷惑だ」(問 5.8), 「自分なら治してあげられる」(問 5.10) に対しては

それぞれ肯定的な反応を示す。

・「同性愛は遺伝的要素が大きい」(問 6.6) に対しては肯定的な反応を示す。

・「女性は視野が狭い」(問 7.7) に対しては肯定的な反応を示す。

となる。第二主成分の解釈は第一主成分と比較すると若干複雑である。まず、問 4.1.1 ～問 4.3.2 までの回答に現れているように、表層的には性的マイノリティに対する受容の姿勢がみられる一方で、問 5 の各設問に対する応答および問 6 の応答から推測されるように性的マイノリティに対する哀れみ・憐憫といった要素を合わせ持つ「性的マイノリティに対する同情因子」であると推測することができる。

第三主成分の重要な特徴を列挙すると、以下となる。

・「誘惑があってもやるべきことはする」(問 7.2) に対して否定的な応答を示す。

・「頼りになるのは男性だ」(問 7.5),「こまごまとした管理は女性向である」(問 7.6),「男はむやみに弱音を吐いてはいけない」(問 7.8),「男性は女性より性欲が強い」(問 7.9),「男性は女性より攻撃的だ」(問 7.10)といった日常的なジェンダー規範について、否定的な応答を示す。

以上より、第三主成分は通俗的なジェンダー規範を否定する姿勢を表す成分であると考えられる。他方、性的マイノリティに対する共感因子との相関は

見られなかった。すなわち、この因子は通俗的なジェンダー規範のみに否定的に応答する、「通俗的ジェンダー平等意識因子」であると言える。

第四主成分の特徴を以下に列挙する。

・「近い人に同性愛者がいるか」(問 1.1),「近い人に性同一性障害の人がいるか」(問 1.2)に対して肯定的な応答を示す。

・問 4.1.1 ～問 4.2.2 までの、知人が性的マイノリティであった場合にどう思うかを問う各設問に対し

質問	質問の内容	第1主成分	第2主成分	第3主成分	第4主成分	第5主成分
問1.1	身近に同性愛者がいるか?	0.07	-0.10	0.12	-0.23	0.23
問1.2	身近に性同一性障害の人がいるか?	0.03	-0.12	0.09	-0.26	0.25
問2.1	知識:性同一性障害と同性愛は同じである	0.07	-0.04	0.18	-0.10	0.27
問2.2	知識:日本では同性愛は精神病とされる	0.02	-0.01	0.03	-0.11	0.15
問2.3	知識:里親になるには法律改正が必要	0.03	-0.07	0.06	-0.14	0.21
問2.4	知識:性同一性障害は性自認と身体的性別が一致しない状態	0.04	-0.01	0.13	-0.10	0.28
問2.5	知識:戸籍上の性別を変えることができる	0.03	0.01	0.06	-0.08	-0.02
問3	正しい知識を身に付けたいか	0.17	-0.05	0.14	-0.16	0.03
問4.1.1	知人が同性愛者だったらどう思うか?	0.24	-0.24	-0.10	0.21	0.01
問4.1.2	知人が性同一性障害の人だったらどう思うか?	0.23	-0.25	-0.08	0.22	0.05
問4.2.1	同じ大学の人が同性愛者だったらどう思うか?	0.24	-0.21	-0.08	0.22	0.02
問4.2.2	同じ大学の人が性同一性障害の人だったらどう思うか?	0.23	-0.22	-0.07	0.24	0.04
問4.3.1	きょうだいが同性愛者だったらどう思うか?	0.22	-0.20	-0.17	0.10	-0.01
問4.3.2	きょうだいが性同一性障害の人だったらどう思うか?	0.23	-0.20	-0.16	0.11	-0.01
問5.1	同性友人からのカミングアウト:言ってくれてうれしい	0.19	-0.07	0.12	-0.14	-0.19
問5.2	同性友人からのカミングアウト:理解したい	0.19	-0.08	0.16	-0.15	-0.07
問5.3	同性友人からのカミングアウト:かわいそう	-0.11	-0.24	0.05	-0.10	-0.20
問5.4	同性友人からのカミングアウト:興味がでくる	0.10	-0.21	0.13	-0.17	0.00
問5.5	同性友人からのカミングアウト:寄り添いたい	0.16	-0.09	0.04	-0.22	-0.29
問5.6	同性友人からのカミングアウト:身の危険を感じる	-0.18	-0.22	-0.10	-0.12	0.01
問5.7	同性友人からのカミングアウト:気持ち悪い	-0.24	-0.18	-0.14	-0.08	0.03
問5.8	同性友人からのカミングアウト:迷惑だ	-0.22	-0.20	-0.17	-0.11	0.03
問5.9	同性友人からのカミングアウト:大変なことになった	-0.18	-0.15	-0.09	-0.09	0.08
問5.10	同性友人からのカミングアウト:自分なら治してあげられる	-0.10	-0.24	-0.11	-0.18	-0.08
問5.11	同性友人からのカミングアウト:聞かなかったことにしたい	-0.21	-0.19	-0.11	-0.09	0.03
問5.12	同性友人からのカミングアウト:どうでもいい	-0.10	-0.11	-0.16	0.04	0.23
問6.1	同性愛に関する意見:不道德だ	-0.21	-0.17	-0.08	-0.10	0.03
問6.2	同性愛に関する意見:恋愛感情を持たれるのは嫌だ	-0.20	-0.08	0.04	0.03	0.17
問6.3	同性愛に関する意見:寮生活では同部屋でもよい	0.18	-0.09	-0.03	-0.16	0.07
問6.4	同性愛に関する意見:同性婚も認められるべきだ	0.18	-0.06	0.08	-0.19	0.12
問6.5	同性愛に関する意見:恥ずかしいことではない	0.20	-0.05	0.12	-0.15	0.11
問6.6	同性愛に関する意見:遺伝的要素が大きい	-0.09	-0.22	0.02	-0.12	-0.10
問7.1	噂話をそのまま信じない	0.02	0.00	0.04	-0.06	0.05
問7.2	誘惑があってもやるべきことはやる	0.01	0.05	0.22	-0.01	0.06
問7.3	相手の立場を考えず悪口を言ってしまう	-0.03	-0.08	0.06	0.11	0.27
問7.4	ばれなければ悪いことをしてしまう	-0.04	-0.11	0.03	0.20	0.33
問7.5	頼りになるのはやはり男性だ	-0.10	-0.19	0.23	0.14	-0.09
問7.6	こまごまとした管理は女性向きである	-0.10	-0.15	0.23	0.11	-0.23
問7.7	女性は視野が狭い	-0.06	-0.23	0.07	0.04	-0.19
問7.8	男はむやみに弱音をはいてはいけない	-0.14	-0.17	0.22	0.19	-0.01
問7.9	男性は女性より性欲が強い	-0.08	-0.14	0.37	0.11	-0.09
問7.10	男性は女性より攻撃的だ	-0.11	-0.10	0.32	0.18	-0.04
問8	戸籍上の性別	-0.11	-0.01	-0.01	0.27	0.24

図 13 第一～第五主成分に対する因子負荷量

ては、拒否の応答を示す。

- ・「同性友人からのカミング・アウト：寄り添いたい」(問 5.5) に対しては肯定的な応答を示す。

- ・戸籍上の性別 (問 8) については、女性が典型的にこの成分の応答に適合していることを示す。

以上より、この成分は近しい人に性的マイノリティがいる場合の現実的な応答 (知人が性的マイノリティであることは嫌だが、同性友人からカミング・アウトされれば理解したいと考える) を表していると考えられる。ここでは、便宜上「現実的正義感因子」と呼ぶことにする。知人に性的マイノリティが存在することに起因する性的マイノリティに対する否定的な意識を持つ一方で、同性愛からのカミング・アウトに対しては寄り添いたいといった正義感を併せ持つ因子であることを表している。

第五主成分の特徴を以下に列挙する。

- ・「近しい人に同性愛者がいるか」(問 1.1), 「近しい人に性同一性障害の人がいるか」(問 1.2) に対して否定的な応答を示す。

- ・「知識：性同一性障害と同性愛は同じ」(問 2.1), 「知識：里親になるには法律改正が必要」(問 2.3), 「知識：性同一性障害とは... 疾患名である」に対してそれぞれ正しくないまたは分からないと回答する傾向を示す。

- ・「同性友人からのカミング・アウト：寄り添いたい」(問 5.5) に対しては肯定的な応答を示し, 「同性友人からのカミング・アウト：どうでもいい」(問 5.12) に対しては否定的な応答を示す。

- ・相手の立場を考えずに悪口を言う (問 7.3), ばれなければ悪いことをしてしまう (問 7.4) に対しては否定的な応答を示す。

- ・こまごまとした管理は女性向きである (問 7.6) に対しては肯定的な応答を示す。

- ・戸籍上の性別 (問 8) については、女性が典型的にこの成分の応答に適合していることを示す。

以上より、この成分は近しい人に性的マイノリティがいない場合の一般的な応答 (同性友人からカミング・アウトされれば理解したいと考えるが、性的マイノリティに対する知識は正確ではない。) を表していると考えられる。便宜上、「正義感因子」と名付ける。第四主成分と比較すると、性的マイノリティが身近に存在しないことからジェンダーに対する認識は高くないが、一方で正義感の寄与が大き

い因子であるからである。

3) まとめ

これまでに述べてきた 5 つの主成分の意味づけをまとめると、

(第一主成分) 性的マイノリティに対する嫌悪感因子
(第二主成分) 性的マイノリティに対する同情因子
(第三主成分) 通俗的ジェンダー平等意識因子

(第四主成分) 現実的正義感因子 (性的マイノリティとの接触機会がある場合)

(第五主成分) 正義感因子 (性的マイノリティとの接触機会がない場合)

となる。このうち、第四および第五主成分の意味づけについては、今後の解析の進捗により修正される可能性がある。一方、第一～第三主成分については、因子負荷量との対応により明確な意味づけができた。特に第一～第三主成分の意味づけは、性的マイノリティに対する意識、態度に影響を与えるさまざまな因子の相互関係を共分散構造分析を用いて考察する際の出発点になるものである。

考 察

以上、2017 年に行われた調査の結果を概観してきた。「1. 単純集計」や「2. ジェンダー別クロス集計」によると、本調査の特徴は、第一報に比べて性的マイノリティに関する客観的知識量が少ないこと、性的マイノリティとの接触機会はほぼ同程度であること、知識習得意欲が高いこと、身近な同性愛者に対する嫌悪感情が低いこと、そして性的マイノリティに対する意識に男女差がみられる項目が多いことがその主たる特徴といえる。これらについて、網羅的に一貫した傾向として把握することは困難であるが、一点示唆的なものを指摘しておきたい。

前報では、その回答傾向が釜野らの全国調査に対して、客観的知識量が多いこと、性的マイノリティに対して平等志向が強いこと、そして意識の男女差が少ないこと (男女で有意差のみられる項目が少ないこと) が特徴的であったのだが、それに対し本調査の結果は全体的に全国調査の結果に近いものとなっている。

この原因を特定することは現時点では困難であるが、本稿では要因の一つになりうるものとして両調査における調査状況の違い (授業からのキャリアオーバー) をあげておきたい。2016 年度調査では、

調査のタイミングが、差別や人権をテーマとした必修科目の授業後の休み時間であったのに対し、本調査（2017年実施）では、その授業が開始される前の週に調査が実施された。そのため、本調査の学生は前年の学生が受けたような授業を受ける前に調査を行ったことになる。調査の考察や知見の抽出したいはこれらの状況を踏まえたものとなっているのだが、ここで注目したいのは、授業の実施と回答傾向の違いである。

授業を受けた後の学生は、授業を受けずに調査に回答した学生と比べて、平等志向が高く、その男女差が少なかった。これは授業を受けた学生には、授業の影響があらわれること、それも男子学生にそれが顕著にあらわれることを示すものである。調査の常識として当然の結果ではあるが、学生を一堂に集めて行う人権研修や講習会に対して、効果を疑問視する声が上がると、この資料が示す意味は小さくないと思われる。また、一般にその効果が男子学生に顕著に表れるということは、性差別問題に対する男性の意識の低さに対する処方としても示唆的である。他方で、客観的知識に関する点数が上昇したことについては本稿ではその意味を明らかにすることはできない。授業では女性差別に対する言及はあるものの、性的マイノリティに関する内容には一切触れておらず知識の拡大につながるものはなかったからである。このことの解明にはさらなる調査や考察を要すると思われる。

以上のような状況は調査に協力いただいた大学のカリキュラムの都合上やむを得ないものであった

が、決して望ましい状況ではなかった。2018年の調査では再び授業前に調査を実施する。そこで再度データの持つ意味を考察したい。

謝辞 本調査および研究の実施に際しては「昭和大学富士吉田教育部の共同研究費」より研究支援を受けている。ここに謝意を記す。

利益相反

本研究に関し開示すべき利益相反はない。

文 献

- 1) 須長史生, 小倉 浩, 堀川浩之, ほか. セクシュアル・マイノリティに対する大学生の意識と態度 (第1報) インターネットを活用した調査研究. 昭和学生会誌. 2017;77:530-545.
- 2) 釜野さおり, 石田 仁, 風間 孝, ほか. 性的マイノリティについての意識. 2015年全国調査発表会資料. 2016年6月. 2016.
- 3) 厚生労働省. 里親制度等について. (2018年1月14日アクセス) http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/syakaiteki_yougo/02.html
- 4) 厚生労働省. 特別養子縁組制度等について. (2018年8月29日アクセス) <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000169158.html>
- 5) 豊田秀樹編. 共分散構造分析 入門編—構造方程式モデリング. 東京: 朝倉書店; 1998.
- 6) 朝野熙彦, 鈴木督久, 小島隆矢. 入門共分散構造分析の実際 (KS 理工学専門書). 東京: 講談社; 2005.
- 7) 永田 靖, 棟近雅彦. 多変量解析法入門 (ライブラリ新数学体系). 東京: サイエンス社; 2001.

※この調査に用いた質問と回答は以下の通り
(参考資料) 質問文と回答別割合 (%)

問 1	あなたの近い友人や知人、親戚や家族など身近な方に以下に挙げる人はいますか。
問 1.1	同性愛者 いる [11.0%], そうかもしれない人がいる [9.7%], いないと思う [33.3%], いない [45.2%], その他、答えたくない [0.9%]
問 1.2	性同一性障害の人 いる [4.9%], そうかもしれない人がいる [5.4%], いないと思う [38.0%], いない [51.0%], その他、答えたくない [0.7%]
問 2	以下は「同性愛」および「性同一性障害」に関する知識を問う問題です。以下の記述は正しいと思いますか、正しくないと思いますか。各記述に対して回答を一つ選んでください。
問 2.1	「性同一性障害と同性愛は同じである」(正解:「正しくない」) 正しい [2.9%], 正しくない [68.8%], わからない [28.1%], その他、答えたくない [0.2%]
問 2.2	「日本では、同性愛は精神病とされる」(正解:「正しくない」) 正しい [5.4%], 正しくない [60.0%], わからない [33.7%], その他、答えたくない [0.9%]
問 2.3	「日本では、同性カップルが正式に里親になるためには法律の改正が必要である」(正解:「正しくない」) 正しい [44.9%], 正しくない [7.9%], わからない [47.0%], その他、答えたくない [0.2%]
問 2.4	「性同一性障害とは性自認と身体的性別が一致していない状態につけられた疾患名である」(正解:「正しい」) 正しい [70.6%], 正しくない [4.9%], わからない [24.3%], その他、答えたくない [0.2%]
問 2.5	「日本では、戸籍上の性別を変えることができる」(正解:「正しい」) 正しい [54.6%], 正しくない [15.3%], わからない [29.7%], その他、答えたくない [0.4%]
問 3	あなたは、同性愛者、性別を変えた方、性同一性障害などについて正しい知識を身につけたいと思いますか。とてもそう思う [28.1%], 思う [51.0%], それほど思わない [20.0%], 思わない [0.9%]
問 4	以下で、身近な人が「同性愛者」または「性同一性障害の人」だった場合について伺います。
問 4.1	「あなたの知人」が「同性愛者」だったら、あるいは「性同一性障害の人」だったら、あなたはどのように思いますか。あなたの気持ちにもっとも近いものを1つ選んでください。 同性愛者: 嫌ではない [58.4%], どちらかという嫌ではない [23.4%], どちらかといえば嫌だ [13.9%], 嫌だ [1.6%], その他、答えたくない [2.7%] 自分の性別に違和感を持っている人: 嫌ではない [61.3%], どちらかという嫌ではない [24.5%], どちらかといえば嫌だ [10.6%], 嫌だ [0.9%], その他、答えたくない [2.7%]
問 4.2	「同じ大学の人」が「同性愛者」だったら、あるいは「性同一性障害の人」だったら、あなたはどのように思いますか。あなたの気持ちにもっとも近いものを1つ選んでください。 同性愛者: 嫌ではない [60.2%], どちらかという嫌ではない [23.6%], どちらかといえば嫌だ [12.1%], 嫌だ [1.1%], その他、答えたくない [2.9%] 自分の性別に違和感を持っている人: 嫌ではない [62.2%], どちらかという嫌ではない [26.5%], どちらかといえば嫌だ [7.4%], 嫌だ [0.9%], その他、答えたくない [2.9%]
問 4.3	「あなたのきょうだい」が「同性愛者」だったら、あるいは「性同一性障害の人」だったら、あなたはどのように思いますか。あなたの気持ちにもっとも近いものを1つ選んでください。 同性愛者: 嫌ではない [43.6%], どちらかという嫌ではない [18.0%], どちらかといえば嫌だ [24.7%], 嫌だ [11.2%], その他、答えたくない [2.5%] 自分の性別に違和感を持っている人: 嫌ではない [44.9%], どちらかという嫌ではない [20.9%], どちらかといえば嫌だ [22.2%], 嫌だ [9.2%], その他、答えたくない [2.7%]

問 5	あなたが仮に、仲の良い同性の友人から「同性愛者」とであると告げられたとしたら（カミングアウトされたとしたら）、どのような気持ちになると思いますか。以下のそれぞれの気持ちについて、最も当てはまるものをそれぞれ1つ選んでください。
問 5.1	言ってくれてうれしい 当てはまる [45.6%], やや当てはまる [41.3%], あまり当てはまらない [10.6%], 当てはまらない [2.5%]
問 5.2	理解したい 当てはまる [63.1%], やや当てはまる [31.9%], あまり当てはまらない [3.8%], 当てはまらない [1.1%]
問 5.3	かわいそう 当てはまる [2.9%], やや当てはまる [12.8%], あまり当てはまらない [47.2%], 当てはまらない [37.1%]
問 5.4	興味が出てくる 当てはまる [13.3%], やや当てはまる [42.7%], あまり当てはまらない [31.7%], 当てはまらない [12.4%]
問 5.5	寄り添いたい 当てはまる [21.8%], やや当てはまる [46.5%], あまり当てはまらない [25.8%], 当てはまらない [5.8%]
問 5.6	身の危険を感じる 当てはまる [2.5%], やや当てはまる [10.8%], あまり当てはまらない [38.2%], 当てはまらない [48.5%]
問 5.7	気持ち悪い 当てはまる [0.9%], やや当てはまる [7.4%], あまり当てはまらない [35.1%], 当てはまらない [56.6%]
問 5.8	迷惑だ 当てはまる [0.7%], やや当てはまる [4.5%], あまり当てはまらない [32.8%], 当てはまらない [62.0%]
問 5.9	大変なことになった 当てはまる [4.5%], やや当てはまる [18.2%], あまり当てはまらない [33.5%], 当てはまらない [43.8%]
問 5.10	自分なら治してあげられる 当てはまる [0.7%], やや当てはまる [1.1%], あまり当てはまらない [32.8%], 当てはまらない [65.4%]
問 5.11	聞かなかったことにしたい 当てはまる [2.5%], やや当てはまる [8.8%], あまり当てはまらない [33.7%], 当てはまらない [55.1%]
問 5.12	どうでもいい 当てはまる [6.1%], やや当てはまる [13.0%], あまり当てはまらない [33.0%], 当てはまらない [47.9%]
問 6	以下の「同性愛に関する」意見や考えに対してあなたはどのように感じていますか。 次のそれぞれの項目について当てはまるものをお答えください。
問 6.1	同性愛は不道德だ 当てはまる [1.3%], やや当てはまる [1.8%], あまり当てはまらない [38.7%], 当てはまらない [58.2%]
問 6.2	同性に恋愛感情を持たれるのは嫌だ 当てはまる [9.9%], やや当てはまる [25.4%], あまり当てはまらない [35.3%], 当てはまらない [29.4%]
問 6.3	寮生活では同性愛者と同部屋でもよい 当てはまる [24.7%], やや当てはまる [32.8%], あまり当てはまらない [30.1%], 当てはまらない [12.4%]
問 6.4	同性同士の結婚も法律的に認められるべきだ 当てはまる [48.5%], やや当てはまる [36.4%], あまり当てはまらない [12.1%], 当てはまらない [2.9%]
問 6.5	同性愛は恥ずかしいことではない 当てはまる [47.9%], やや当てはまる [40.2%], あまり当てはまらない [11.0%], 当てはまらない [0.9%]
問 6.6	同性愛は遺伝的要素が大きい 当てはまる [3.6%], やや当てはまる [11.2%], あまり当てはまらない [44.0%], 当てはまらない [41.1%]

問 7	以下はあなたの意見や考えについてお聞きします。次のそれぞれの項目について当てはまるものをお答えください。
問 7.1	友人から聞いた噂話をそのまま信じ込まない 当てはまる [20.4%], やや当てはまる [50.8%], あまり当てはまらない [27.9%], 当てはまらない [0.9%]
問 7.2	どうしてもやらなければならないことがあるときには誘われても遊びに行くのを我慢する 当てはまる [31.9%], やや当てはまる [45.6%], あまり当てはまらない [20.2%], 当てはまらない [2.2%]
問 7.3	相手の立場を考えずに悪口を言うてしまうことがある 当てはまる [9.2%], やや当てはまる [36.9%], あまり当てはまらない [42.7%], 当てはまらない [11.2%]
問 7.4	絶対にばれないと思ったら悪いことをしてしまう 当てはまる [9.7%], やや当てはまる [38.0%], あまり当てはまらない [40.2%], 当てはまらない [12.1%]
問 7.5	最終的に頼りになるのやはり男性である 当てはまる [9.2%], やや当てはまる [25.6%], あまり当てはまらない [45.8%], 当てはまらない [19.3%]
問 7.6	家庭のこまごまとした管理は女性でなくてはと思う 当てはまる [5.6%], やや当てはまる [24.7%], あまり当てはまらない [44.5%], 当てはまらない [25.2%]
問 7.7	女性は視野が狭い 当てはまる [3.4%], やや当てはまる [11.2%], あまり当てはまらない [43.8%], 当てはまらない [41.6%]
問 7.8	男はむやみに弱音を吐くものではない 当てはまる [8.8%], やや当てはまる [23.1%], あまり当てはまらない [40.4%], 当てはまらない [27.6%]
問 7.9	男性の性欲は概して女性に比べて強い 当てはまる [15.3%], やや当てはまる [42.5%], あまり当てはまらない [31.7%], 当てはまらない [10.6%]
問 7.10	男性は女性に比べて攻撃的だ 当てはまる [8.1%], やや当てはまる [36.6%], あまり当てはまらない [37.1%], 当てはまらない [18.2%]

THE AWARENESS AND BEHAVIOR OF UNIVERSITY STUDENTS
TOWARD SEXUAL MINORITY : PART2
— A RESEARCH STUDY THROUGH AN ONLINE SURVEY —

Fumio SUNAGA, Hiroshi OGURA,
Hiroyuki HORIKAWA and Norimitsu KURATA

College of Arts and Sciences, Showa University

Keiko MASAKI

College of Arts and Sciences, Showa University students' counselor

Abstract — This study forms the second part of our research on university students' awareness and attitude toward sexual minorities, which started in 2016 and will continue until 2020, aiming to show how young people aged 18 to early 20s feel about sexual minorities. As a follow-up to Sunaga *et al.* (2017), who reported the results of a questionnaire conducted via the internet in 2017, this study is a report of the results of our second questionnaire carried out in 2018. The study was conducted on 445 first year university students (response rate 76.6%, male: 129, female: 313, other 3). Compared to the first report, our results show that although (a) the participants have almost the same amount of experience in having any contact with sexual minority individuals, (b) they have less common knowledge about sexual minority, (c) they feel less disgusted by their neighbor sexual minority people, and (d) male participants and female participants respond to some questions differently, resulting in the increased number of the questions showing a statistically significant difference. The 2017 questionnaire survey was carried out after the participants learned about discrimination and human rights in class. In contrast, the 2018 questionnaire survey was taken before the class. In the paper we also discuss potential influences these differences may have on the results of our study.

Key words: sexual minority, cognitive awareness, gender bias

〔受付：2月22日，受理：3月28日，2019〕